

東北太平洋海域におけるサワラ漁獲量と水温の関連性

ねらい	近年、東北太平洋海域で漁獲が急増しているサワラの漁獲動向を把握し、水温との関連性を検討することにより、当該海域へのサワラ来遊の原因を探る。
成果の特徴	東北太平洋海域におけるサワラ漁獲量の急激な増加は、秋については、津軽海峡を抜けて来遊した東シナ海系群の資源による可能性が高いと考えられた。日本近海の水況変動に伴い、サワラの回遊経路が変化していると考えられる。
成果の活用面	現在、サワラの漁獲は定置網に限られているが、今後もサワラの来遊が続くようであれば、曳釣り等の導入により有効利用方法の幅を広げることが可能になる。

[具体的データ]

月別の漁獲動向は、青森、岩手、宮城の3県がほぼ連動しており、漁獲のピークは春（5月）と秋（8～11月）にみられた（図1）。

6月から10月にかけて体長は大きくなった。成熟個体（成熟度指数4.0以上（篠原、1991））は、6月に4%含まれたのみであり、8、10月は未成熟魚のみであった。また、各月ともにメスの割合が80%と著しく高かった（図2）。

表面水温と各県の漁獲量を比較した結果、秋は青森、岩手、宮城の3県ともに8～12月の津軽海峡の表面水温と同期の漁獲量に高い正の相関が認められた（表1）。

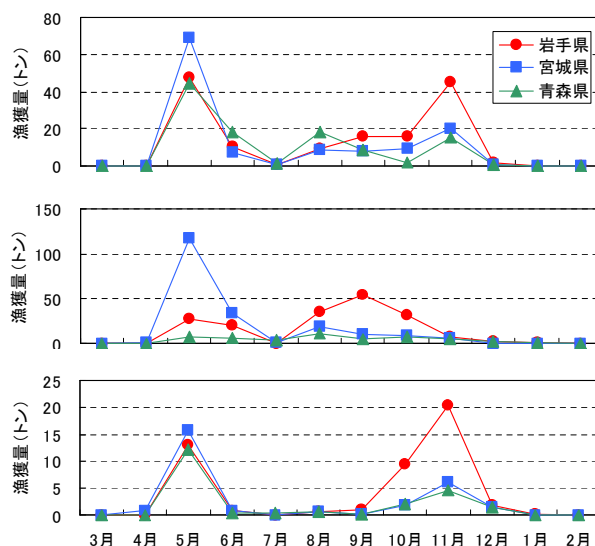


図1. 月別漁獲量の推移

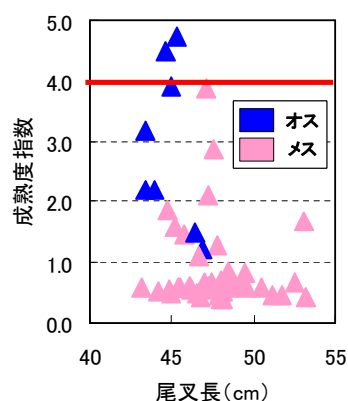
図2. 成熟度指数
(6月)

表1. 3県の漁獲量と各海域の表面水温との相関

				表面水温					
				山形県	秋田県	津軽海峡	岩手県北部	宮城県	福島県
漁獲量	春	R ²	青森	0.44	0.56	0.30	0.21	0.34	0.24
			岩手	0.72	0.79	0.39	0.23	0.48	0.50
			宮城	0.77	0.76	0.34	0.15	0.42	0.61
		判定		○	○	×	×	×	△
	秋	R ²	青森	0.30	0.56	0.68	0.53	0.05	0.01
			岩手	0.39	0.62	0.80	0.65	0.09	0.01
			宮城	0.37	0.63	0.74	0.66	0.03	0.04
		判定		×	○	◎	○	×	×

担当者	漁業資源部 専門研究員 高橋憲明	TEL : 0193-26-7915	FAX : 0193-26-7920
連絡先	〒026-0001 岩手県釜石市大字平田第3地割75番3号		
	ホームページ http://www.pref.iwate.jp/~hp5507/		